

大阪東ブロック 京阪支部 (株) 広告研究所 今井知子

わたしの育った街『守口』は、パナソニックや三洋電機の本社があるため、昔から「電気の街」として有名です。そして、京阪百貨店の1号店は、守口店なんです！京阪百貨店が、30年前にできた頃から、駅周辺には色んなお店ができ、多くの人が行き交う街に、かなり変化したように思います。

そんな街のすぐそばに、タイムスリップしたかのような空間が、所々に突然現れます。京阪電車の守口市駅の東改札口の北側に陸橋が見えるのですが、これは「文禄堤」の途中に架かる「本町橋」と言います。この辺りは、伏見城と大坂城を結ぶ最短距離の道として、文禄5年（1596年）豊臣秀吉によって整備されたもので、堤防上の道は「京街道（大坂街道）」と呼ばれていました。



元和2年（1616年）頃には、東海道の57番目の宿場として「守口宿」が整備されたのです。堤の長さは、約27kmあったらしいのですが、淀川の改修工事などで姿を消してしまい、この辺りは唯一現在でも当時の面影が残る貴重な文化財らしいのです。「文禄堤」周辺には、風情のある階段や坂道があちこちに見られ、石碑がたくさんあるので、ぶらっと散策にはオススメの場所なんです。その周辺には、戦前から建つ古民家を活用したお店がいくつかあります。そのなかでほっこりできる2軒のお店を紹介します。

1軒目は、来迎カレーの店「うべぼ」。民家のなかにひっそりと隠れたお店で、初めて訪れる人は、ほとんどの人が辿り着くことができない、わかりにくい場所にあります。しかし、その雰囲気や空間を味わいに、多くの人を訪れます。冬はこたつに入りながら、実家で食事をしている感じ。子ども連れのお客さまも多いんです。



わたしがいつも頼むのは、チャパティセットで、人参をまぶしたご飯とナンがついています。チキンもやわらかく素朴な味わいのおいしいカレーです。

2軒目のお店は、カフェ「ゆめどの」です。長屋だったところを、外観はそのまま天井や壁をぶち抜いて改造したらしいのですが、ゆったりとしたスペースに暖炉や庭があり、天井が高く梁がむき出しで、落ち着いたその空間を楽しむことができます。



手づくりケーキも人気で、カフェをゆっくりと楽しみにくる女性客が多いです。お食事も素朴でヘルシーなメニューばかりです。（日曜日はお休みです）

皆さまも、昔懐かしい雰囲気を満喫できる『守口』を散策し、温故知新を体感してみてくださいいかがでしょうか。